

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日平成21年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4673200061
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス郡山
所在地	鹿児島市西俣町210番地 (電話) 099-245-6311
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成21年5月30日

【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 6 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	13 人

(2)建物概要

建物構造	重量鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	9 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.1 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院、ゆのもと記念病院歯科、まえはらりハビリクリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の農村地域に建つホームである。関連施設として病院や介護保険施設などをもち、連携しながら安心して暮らせるケアを提供している。毎月催される「みんなで作ろう」の会は地域の方と一緒に楽しむ会で定着している。地域との連携に力を入れた結果、住民の協力も得られ、ホーム行事への参加も多い。さらに、介護相談員を受け入れたり、第三者委員が運営推進会議に参加するなどサービスの透明性の確保に努めている。今年の家族会は利用者全員の家族が参加するなど家族の協力も得られ、また、職員意見箱を利用し職員同士の風通しを良くするなどの改善にも取り組み始めている。対話の中で多くの職員から次々と飛び出すホームのアピール点からも、一丸となって常に改善に取り組んでいる前向きな姿勢が感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価の結果は職員ミーティングで伝達し具体的な取り組みを話し合い、災害の際の備品の準備、職員研修の積極的な受講支援など改善に取り組んでいる。また、家族会でも結果を伝え、玄関にも設置し誰もが閲覧できるようにしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各々の職員が考えたものをまとめたもので、昨年と状況の変化を確認し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに開催され、自治会長、民生委員、老人会長、地域包括支援センター職員、家族代表など第三者委員や、周辺地域の住民を含めて多方面からの参加がある。事業所行事の報告のみではなく、出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっている。今後は運営推進会議で外部評価結果や自己評価の説明がどのように行われたのかなどの議事録への記載が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	第三者委員を決め、運営推進会議に参加してもらったり、家族会を開き家族との意見交換の機会を持ったり、毎年アンケートを取るなど家族が意見や要望を表しやすい工夫と配慮がみられる。要望などを把握した時には申し送りノートで他の職員と共有し、速やかな解決を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、回覧板のやり取りや、散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけ、小・中学生との交流、地域行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。また、毎月開かれる「みんなでつくる」の会は地域の方も楽しみにして待つほど定着し、立ち寄りやすいホームとなっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あったか地域で あったか交流」と職員が話し合っって作った独自の理念があり、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや日々の業務の中で理念を確認し介護に取り組んでいる。また、作成された理念は玄関、ホールなどに掲示し職員のみでなく来所者にも理解してもらえるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板のやり取りや散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけ、小・中学生との交流、地域行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。また、毎月開かれる「みんなでつろう」の会は地域の方も楽しみにして待つほど定着し、立ち寄りやすいホームとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価の結果を職員ミーティングで伝達し具体的な取り組みを話し合い、災害時の備品などの準備、職員研修の積極的な受講支援を行っている。評価結果は誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。今回の自己評価は各々の職員が考えたものをまとめたもので、昨年と状況の変化を確認し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催され、自治会長、民生委員、老人会長、地域包括支援センター職員、家族代表などの参加がある。事業所行事の報告のみではなく、出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっている。しかし、運営推進会議で外部評価結果や自己評価の説明がどのように行われたのか、議事録などによる確認ができない。	○	年1回の評価の効果をより高めるために、取り組みや改善経過のモニター役として、運営推進会議で自己評価の説明をしたり、外部評価の結果を公表することなどが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当窓口へ出向いたり、電話により積極的に相談や情報交換を行っている。また、毎年1回は介護相談員の派遣も依頼し利用者の相談を受けるとともにサービスの透明性を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時にビデオや写真を利用し利用者の暮らしぶりを伝えたり、ホーム便りも配布している。職員の異動については面会時に報告し、預かり金については家族の理解を得て少額を本人管理としているため発生しない。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話などで家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を決め、運営推進会議に参加してもらったり、家族会を開いたり、毎年アンケートを取るなど家族が意見や要望を表しやすい工夫と配慮がみられる。職員が苦情などを把握した時には申し送りノートで他の職員と共有し、速やかな解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮し、離職を防止するように努力している。異動がある時には引き継ぎ期間を十分に設け、情報の伝達と利用者の混乱を防ぐための対応をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年の外部評価で取り組み事項となっていた。法人内やホーム内の研修では、職員自らが講師を務めるテーマや受講内容について計画がある。施設外研修は管理者が職員に紹介し、勤務の調整をしたり受講費を法人が負担するなど積極的に支援している。しかし、習熟度に応じた具体的な研修方針は確認できない。	○	立場や経験などに応じて段階的に力をつけていけるような研修方針を明文化することが望まれる。限られた職員体制の中で、実務に支障をきたさないように研修機会を確保するためにも、職員と十分に話し合いながら年間計画の中で位置付けていく運営面での工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内だけでなく、他のグループホームも相互に訪問したり、研修会で意見交換を行いながらネットワークづくりやサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に本人や家族にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない時には管理者が向ういて自宅の様子を確認したりして顔馴染みの関係を作っている。施設からの入居の場合は担当者との連携をはかり、施設で作成されたサマリーなどを参考にしながら本人がホームに馴染みやすいように気を配っている。また、入居後は家族の訪問を多くしてもらうなどの協力を求め、ともに支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに過ごす中で料理方法や畑仕事、着物の着付けなど得意なことを教えてもらったり、行事や言い伝えを教えるなど学んだり支えあう関係を築いている。また、利用者同士の話しやすい話題を提供し会話や情報交換が活発になるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	訪問診療を利用し、主治医、家族と、可能な場合は本人も参加した担当者会議を開き、利用者の希望や意向を基に話し合いながら計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が話し合うことで、職員の気づきやくみ取った利用者の意向を反映した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は介護計画を毎日確認し、計画にそって実施したサービスを記録している。さらに、毎月1回は介護支援専門員が評価を行い、状態に変化があり計画の見直しが必要な場合は担当者会議を開いて再度計画を作成している。ニーズや目標、サービス内容を職員が毎日確認することにより、計画を意識したケアができ、状態の細かい変化にも気づきやすくなり、ケアの一貫性が保てるようになったと感じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や早期退院に向けての支援、家族の宿泊支援や食事の配慮など臨機応変に対応している。また、「みんなでつくるう」に地域の高齢者が参加したり、地域高齢者家族の相談にのるなど事業所として地域に貢献している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大切にしている。また、訪問診療や看護師との連携により健康への支援を行っている。通院介助も行われ、利用者の日頃の状況が主治医や医療担当者に伝わっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとり、希望があれば終末期にも対応する方針である。ホームとしての指針を作成し、入居時に家族などに説明し同意をもらい、入居後は本人や家族の気持ちを確認しながら、対応方針を主治医と話し合い、職員にも伝達し共有を図っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	詰所に個人情報の保護方針についての掲示があり、記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては、ミーティングで話し合いながら個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。本人の外出・着衣・理美容などの選択を支援しその人らしい暮らしができるように環境を整えている様子がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に献立についての話をしたり、買い物に行ったりしながら生活の中で食事の希望や食欲を引き出す工夫をしている。嚥下体操をして口腔環境を整えた後で職員も一緒に会話を楽しみながらの食事である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる。利用者の意向を聞きながら希望に合わせての入浴状況である。また、入浴を嫌われる方には入浴時間帯や声かけの仕方を工夫するなど入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・油絵・手芸・詩吟・書道など生活歴から好きなことを見つけたり、入居後に新たに力を引き出したりしながら利用者一人ひとりの豊かな暮らしを支援している。また、職員が着付けを習ったり、来所者にお茶をだしていただくなど利用者の力が発揮できるような場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や畑仕事、外気浴など戸外に出る機会が多い。体の状況によって外出が難しい利用者も、車いすを利用するなど本人にあわせた配慮をして、少しでも風に当たるなどの気分転換やストレス発散、五感を刺激する機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は夜間を想定した避難訓練や消火訓練を2回行った。緊急時のマニュアルを作成し、職員間で共有を図ったり、地域の方にも呼びかけ協力をお願いしている。近所のボヤ騒ぎのときには地域の方がすぐ連絡をくださった。おかげや水や缶詰など1週間分ほどの備えもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事量や水分摂取量を個人別に毎日把握し、排泄状態も観察しながら身体の状態を判断ケアに活かしている。栄養バランスや献立については管理栄養士にアドバイスをもらいながら食生活の質の向上に努めている。また、一人ひとりの能力を見極め食材を小さめに刻む、そばで見守るなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室や食堂などの共有空間には花が飾られ、テーブルやソファで利用者が思い思いにくつろぐ姿がある。共有空間の飾りつけは利用者と制作した手作りの作品や、行事をカレンダーに仕立てたものなど、利用者と楽しんで語り合えるように工夫され、家庭的で落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子、テレビ、テーブル、位牌など馴染みのあるものが持ち込まれ居心地のよい空間となっており、部屋には写真やお便りなどが飾られその人らしい部屋になっている。		